

(ご参考) 用語解説

1. 日本証券業協会:

金融商品取引業の健全な発展を図り、もって投資者の保護に資することを目的とする内閣総理大臣の認可協会。会員数 324 社(平成20年11月20日現在)

2. 証券業界の環境問題に関する行動計画:

日本証券業協会は平成20年2月に証券業界の企業活動のあらゆる面で地球環境の保護に努めることを目的に、8つの行動計画を制定した。

証券業を通じた取組、地球温暖化対策、循環型経済社会の構築、社内教育及び啓発活動、

環境保護活動、環境関連法規等の遵守、数値目標の設定、行動計画の検証

3. 証券業界の環境問題に関する行動計画に規定する数値目標の設定:

日本証券業協会は CO2削減のため電力使用量について数値目標①および②を設定した。

① 新たに取組む社は、平成18年度の本社・本店における使用量を基準に平成20年度から平成24年度までに6%の削減を目指す。

② これまで取組んでいる社は、平成14年度の本社・本店における使用量を基準に平成15年度から平成24年度までに12%の削減を目指す。

4. SRI(Socially Responsible Investment/社会的責任投資):

収益性や成長性が高いというだけでなく、企業の社会的責任(CSR)への取り組みが評価されている企業に対して投資すること。

5. CSR(Corporate Social Responsibility/企業の社会的責任):

企業活動において、法律を守り、提供する商品やサービスに責任を持ち、従業員が働きやすい環境をつくり、地域社会に貢献し、地球環境に配慮した取り組みが、投資家、消費者、従業員、地域住民等の利害関係者と共生すること。

6. エコファンド:

財務的分析に加えて、環境問題への対応が優れている企業及び環境に関連する事業を行う企業の株式を中心に投資する投資信託。

7. グリーン電力:

風力や太陽光、バイオマス、小規模水力などの自然エネルギーや再生可能エネルギーによって発電された電力。

8. ISO14001(環境マネジメントシステム規格):

組織活動、製品及びサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を実施する仕組みが継続的に改善される環境マネジメントシステム (Environmental Management System, EMS)を構築するための規格要求事項。

9. LEED:(Leadership in Energy and Environment Design)

米国グリーンビルディング協議会が制定する環境配慮型省エネオフィスビルにかかわる環境格付け。規格適合水準により、PLATINUM, GOLD, SILVER, CERTIFIED の4ランク分けされる。

10. クールアースデー・セタライトダウン:

地球温暖化対策推進本部において、環境問題の大切さを国民全体で再確認していくため、7月7日を「クールアース・デー」と定め、施設や事業所、家庭などで一斉に電気を消す「セタライトダウン」を推進している。

11. FSC 認証制度:(Forest Stewardship Council 制度)

FSC は、適正な森林管理により生産された木材であることを認証する制度。よって FSC マーのついた木材製品を選ぶことが、森を守るという取り組みに参加していることになる。

12. 大豆油インク:

埋め立て処分しても油分が植物性のため地中で分解しやすく、古紙から再生パルプにする際にインクと紙を分離しやすい、揮発性有機化合物の使用量が少なくすむなど、地球環境にやさしいインク。